

# 岩手医科大学報

Iwate Medical University News

2009・6 vol.398

●発行者—学長 小川 彰 ●題字—理事長 大堀 勉



三田定則先生の署名入り写真と胸像（詳細はP8）

〈撮影 画像情報センター〉

## おもな内容

- 巻頭言／「循環器医療センターの附属病院への統合に伴う今後の展望」  
循環器医療センター長 岡林 均
- 特集／中央材料部の紹介
- 連載／当院認定看護師の紹介(4) ～集中ケア認定看護師としてのこれまでの主な活動～  
集中ケア認定看護師 橋本 良子 田村 ヤス子
- 表彰の榮譽／平成21年度春の叙勲「瑞宝中綬章」を受章：本学関係者5名が受章
- すこやかスポット歯学講座 No.8 「審美歯科について」



## 循環器医療センターの 附属病院への統合に伴う 今後の展望

循環器医療センター長 岡 林 均  
医学部心臓血管外科学講座教授

2009年4月に循環器医療センターは、岩手医科大学附属病院と統合されました。名称も岩手医科大学附属循環器医療センターから岩手医科大学附属病院循環器医療センターとなります。岩手医科大学附属病院は、本院と歯科医療センター、循環器医療センターの統合に伴い病床数としては1,166床となりました。しかしながら、統合はされるもののハード面では今まで通りであり、ソフト面での統合の要素が主たるものであります。

統合に伴い、循環器医療センターの診療科の呼称も変更になりました。各診療科の呼称は循環器内科、心臓血管外科は従来通りですが、小児科、放射線科、麻酔科は循環器小児科、循環器放射線科、循環器麻酔科となり、循環器小児科、循環器放射線科、循環器麻酔科には新たに診療科部長を配置することになりました。また、集中治療部門はCCU、ICUとし、それぞれに室長を配置し手術室にも室長を配置することになり、新しい組織機構となりました。

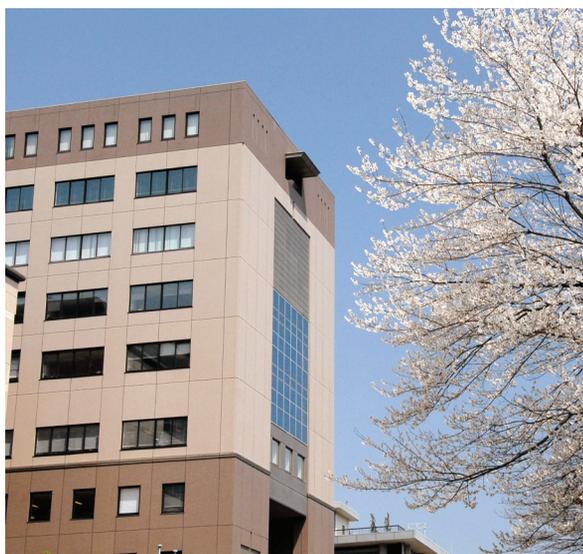
しかし、統合にあたっては直面するいくつかの課題が残っております。当然のことながら各種委員会は本院の委員会に統合され、今までのオブザーバーとしての参加から正式メンバーとして委員会に参加することになりますが、実際の診療面では大きな問題があります。循環器医療センター側には本院で導入されているオーダーリングシステムが導入されていません。したがって、医療スタッフに係る負担は大きく早急なオーダーリングシステムの循環器医療センターへの導入が必要であります。また、事務処理を行う際にも外来を受診する患者さんのID番号が統一できておらず、二重に

IDナンバーを持つこととなります。

ただ、統合により良い面もあります。一般病院から特定機能病院になることにより、DPCの病院別調整係数が上がり、外来診療料も上がります。また、初診時加算料金も算定出来るようになり、循環器医療センターとしての稼働額は大幅にアップすることが期待されます。

岩手医科大学附属病院における循環器医療センターの占める重要性はますます大きくなりますので、統合後もより効率の良い、高度の医療が実践できるよう取り組んでいかなければならないと痛感しております。

今後ともよろしく御願ひ申し上げます。



本院と統合された循環器医療センター

(撮影 画像情報センター)

# 特集

## 中央材料部の紹介

### 中央材料部長挨拶

中央材料部長（附属病院副院長）

医学部内科学講座（糖尿病・代謝内科分野）教授

佐藤 讓



中央材料部は大きな変革期を迎えております。主要業務である医療器材の洗浄・滅菌と医療材料の供給は院内各部署の診療を支える重要な後方支援部隊ですが、これらは医療安全と病院にも大きく関与しております。

現在、小林病院長の指揮の下、医療安全と病院経営を両立させる大改革が進行中です。具体的には、各科で使用される膨大な種類と量の医療材料の共通化を図り、一括購入、在庫管理、センターサプライという新物流システムによって医療経費を軽減することです。滅菌ガーゼを規格品に統一しただけで年間一千万円の節約につながりました。

これからも改革が続きますが、当院の発展のために皆様のご理解、ご助言、ご支援を宜しくお願い申し上げます。

### 中央材料部の業務内容

中央材料部（以下、「中材」という。）は中央診療部門に属し、中央材料部長の佐藤教授ならびに阿部看護師長（手術部兼務）のもと、主任看護師1名・スタッフ14名で構成されております。東病棟2階と中病棟地下1階に設置され、医療器材の洗浄・滅菌を主業務とする「中材部門」と医療材料を供給する「物流部門」の双方を担っております。今回は知っていただく機会が少ない医療器材の洗浄・滅菌業務の詳細と医療材料の供給について紹介します。

### 医療器材の洗浄と滅菌

岩手医大附属病院は病床数1,000床を超える病院ですが、中材は手術部の一部と歯科医療センターの一部を除くすべての滅菌を支えています。使用される器材は鑷子だけでも1ヶ月で10,000本近くになります（表1）。

洗浄・包装・滅菌の各工程には、バリデーションが存在しなければなりません。

※バリデーション：科学的根拠を有して再現性のある条件を文書化すること。

表1 平成20年度貸し出した医療器材

縫合セット	1,370セット
単包外科用鑷子	113,704本
反剪刀 大（大クーパー）	9,095本
反剪刀 小（小クーパー）	14,035本
アドソン鑷子	7,533本
哺乳瓶	46,705本

## 1. 医療器材の洗浄

### 器材使用後の処理

器材の洗浄の前に重要なことは、汚染した状態で乾燥させないことです。使用後は、蛋白凝固防止剤をスプレーして乾燥しないようにしています。密閉できる容器が最適で回収・運搬時も安全です（写真1）。



写真1 回収容器の例

### 器材の洗浄

洗浄工程は、プリオン病対策を含め非常に重要でウォッシャーディスインフェクターと呼ばれる洗浄装置で行ないます。ウォッシャーディスインフェクターとは、スプレーで満遍なく水や洗剤を散布し器材を洗浄する装置です（写真2）。

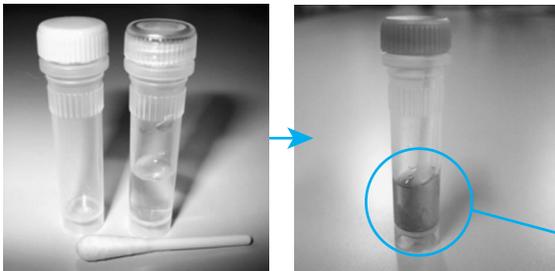
### 洗浄工程の監視

洗浄は前述の通りウォッシャーディスインフェクターが基本ですが、常に洗浄状態を把握し良好な洗浄能力を維持する必要があります。

#### －洗浄の評価－

洗浄能力の評価方法には数種類あります。洗浄後の器材の汚れを調べる直接判定法と洗浄器の洗浄力を調べる間接判定法などがあり、当中材では双方を用いて管理しています。

#### ①器材の汚れを調べる直接判定法

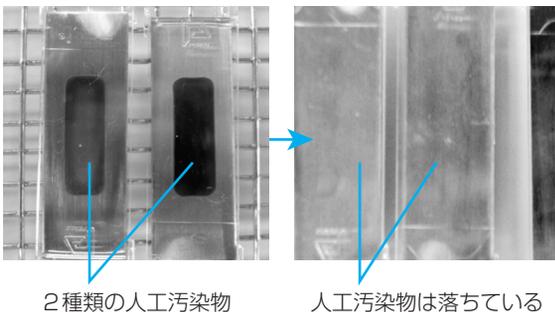


綿棒で鉗子接合部や把持部などを擦り、薬液に漬けて変色するか見ます。変色すれば洗浄不良です。

(Hemo-check S<sup>®</sup>)

青く変色すれば洗浄不良

#### ②洗浄器の洗浄力を調べる間接判定法



2種類の人工汚染物

人工汚染物は落ちている

洗浄器内の洗浄バスケットの数箇所にインジケーターを置いて人工汚染物の落ち具合で判定します。完全に落ちていれば良好です。

(TOSI/TOSI-GOLD<sup>®</sup>)

## 2. 医療器材の滅菌

### 滅菌方法

中材における滅菌方法には、高圧蒸気滅菌と酸化エチレンガス（EOG）滅菌があります。

#### 1) 高圧蒸気滅菌（写真3）

チャンバーという大きな釜のような容器の中に医療器材などを入れ、真空状態にした後121～135℃の高温の蒸気を浸透させて滅菌する方法です。特徴として、滅菌コストが安く90分程で滅菌できますが樹脂製品などには不向きです。



写真3 高圧蒸気滅菌装置とチャンバー内部

2) 酸化エチレンガス (EOG) 滅菌 (写真4)

特定化学物質に指定される有毒ガスの酸化エチレンガスを使用して滅菌する方法です。処理温度が37~60℃と低く、樹脂製品も滅菌可能ですが、ガスを抜くため12時間以上の処理時間が必要です。近年では、発ガン性や環境汚染の問題から減少しつつあります。



写真4 EOG 滅菌装置と防毒マスク着用での作業の様子

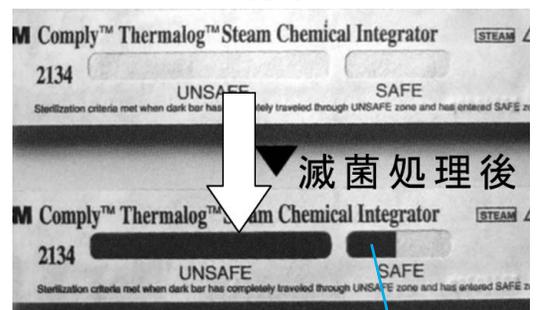
滅菌工程の監視 (滅菌のバリデーション)

滅菌工程では、複数のインジケータで安全性を確認します。

1) 化学的インジケータ (図1)

インクの変色で滅菌工程通過を確認するインジケータで、用途や精度によりクラス1から6まであります。当中材は、精度の高いクラス4~6を滅菌毎に使用します。

図1 クラス5化学的インジケータ



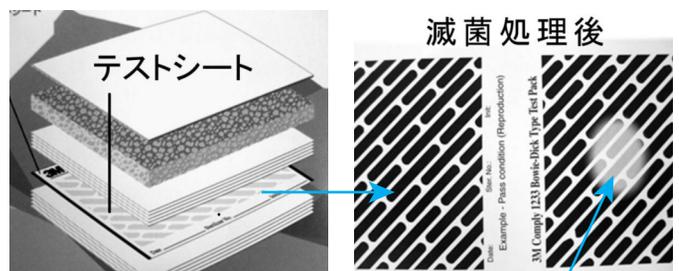
正しい滅菌条件がそろえばこの範囲まで変色

2) ボウイーディックテスト (図2)

高圧蒸気滅菌では、チャンバー内を真空にして高熱の飽和蒸気を満遍なく滅菌物の中まで浸透させます。その時の真空度を確かめることをボウイーディックテストといいます。テストシートを蒸気が浸透しにくいように、わざと包装して滅菌器に入れ、シートの変色で真空度の確認をします。

※滅菌後は黄色から黒に変色するが、真空ではない部分は蒸気が浸透していないため変色しない。

図2 ボウイーディックテスト



変色していない部分

3) 生物学的インジケータ (図3)

死滅しにくい芽胞菌を用いたインジケータで、唯一滅菌を保障できるインジケータです。器材と一緒に滅菌し、滅菌終了後に培養判定用装置で培養して3~4時間後に判定します。(アテスト®)

4) 物理的インジケータ

滅菌器の温度計や圧力計を記録したチャートを示します。滅菌中の圧力の変動や温度の監視を行います。

5) プリオン病感染予防の滅菌条件

厚生労働省のプリオン病感染予防ガイドラインでは、「アルカリ洗剤ウォッシャーディスインフェクター洗浄+高圧蒸気滅菌134℃で8~10分の処理」または「適切な洗浄+高圧蒸気滅菌134℃で18分の処理」とあります。当中材では、脳・脊髄・眼球などの手術・治療に用いた器材は、「アルカリ洗剤ウォッシャーディスインフェクター洗浄+高圧蒸気滅菌135℃18分」の条件で滅菌しています。



図3 細菌入りのカプセルと培養判定器

### 滅菌保障期限

当院での滅菌保障期限は1ヶ月ですが、これは一定時間が経過したら再滅菌を行なう「タイムリレーテッド」と呼ばれる従来からの管理方法で、期限は各施設が独自に決めます。しかし、期限内なら絶対安全ということではありません。また、再滅菌のコストも無視できません。

これに対し欧米では、滅菌保障期限を設けず「落下した」「水に濡れた」などの事象があった場合に再滅菌を行なう「イベントリレーテッド」と呼ばれる管理方法が主流で、日本でも広がりつつあります。安全性の確保とコストダウンに有効です。

#### 滅菌物取扱いの注意事項

- ・落下したものは使用しない
- ・水に濡れた、またはその痕跡があるものは使用しない
- ・脇に挟み込まない
- ・壁際や窓際の結露しやすい場所に保管しない
- ・積み重ねて圧迫しない

#### 平成20年度の滅菌に関するデータ

高圧蒸気滅菌回数（延べ）	3,479回
EOG 滅菌（延べ）	489回
滅菌個（袋）数	約490,000個（袋）
滅菌に要するコスト	約17,000,000円

## 医療材料の供給について

### 1) 中材と医療材料

病床数1,000床を超える当院では、医療材料の消費量も膨大な数となります。中材では、請求の手間や納品までのタイムラグや倉庫の有効活用・不動在庫の削減・一括購入によるコスト削減を目的として払い出し品目の拡大を開始しました。機器・医療材料部会や医療安全推進室、看護部物流委員会に協力いただき払い出し品の選定をしています。

#### 平成20年に中材から供給された医療材料

パック入滅菌済ガーゼ	117,721袋
カップ入り綿球	98,797個
ディスクシリンジ	1,018,570本
吸引カテーテル	426,931本
注射針	794,030本
輸液セット	257,375セット

### 2) 払い出し医療材料の再検討

払い出し医療材料の再検討も経費削減と品質や安全性を重視したうえで行なっています。腰椎穿刺セットのディスクポ化は感染対策室へ依頼、カップ入り綿球や医療用不織布は看護部物流委員会の協力を、外科剪刀やパック入り滅菌ガーゼは各診療科の意見をいただき変更を実施しました。パック入り滅菌ガーゼでは、大幅な経費削減が期待できます。

#### 平成20年度医療材料の変更とその成果（前年度と同数量で比較した場合）

腰椎穿刺セットのディスクポ化（スピッツ・モノメーター）	洗浄しにくいモノメーターのディスクポ化で安全性の向上
カップ入り綿球の変更	-900,000円
医療用不織布の変更	-4,690,000円
外科剪刀の変更	購入少数（1本-500円程度）
パック入り滅菌ガーゼの変更	-9,000,000円～-10,000,000円
SMSシーツ（器械の包装材）	-800,000円

## 今後の展望

現在中材は、大学病院としての高度医療の確実なバックアップと大幅な医療経費削減の実現を目指し、院内の一次洗浄全面廃止や新物流システムの試験運用開始など、大きな転換期を迎えています。中材のスタッフは直接医療現場に携わることはありませんが、現場の皆さんの声を第一に、医療業務のサポートや医療材料の提案をさせていただきますので、今後ともご協力をお願いいたします。

（文責：中央材料部主任看護師 長山 和彦）

## ～集中ケア認定看護師としてのこれまでの主な活動～

集中ケア認定看護師 橋本 良子 田村ヤス子

当院には、集中治療部と小児科病棟（西5A）に配属されている2名の集中ケア認定看護師がおり、現在は看護師長、主任看護師の役割も担っております。

院内活動では、配属されている部署の急性かつ重症患者に対し最適な看護ケアを提供できるように実践することはもちろんですが、現在の活動の主軸となっているのは、2005年から認定看護師会で企画・運営している研修会です。定例で開催される認定看護師会議で年間計画を立て、日程調整を行い、実施においては必要に応じて協力できるような体制をとっています（写真1）。集中ケアでは各病棟の中堅看護師の希望者を対象に、呼吸・循環のフィジカルアセスメントの講義と、日常ケアについてグループワークやディスカッションを行っています。この研修を企画した背景には、医療の高度先進化にともない集中治療部を利用する診療科や手術件数の増加などにより、一般病棟にも常に重症患者や人工呼吸器に代表される各種医療機器を装着している患者がいるという現状があります。参加者が重症者をケアする中で感じている疑問や問題などについて、講義やディスカッションをとおして解決の糸口を見つけ、翌日からの実践に活かし、最適な看護ができることを期待して研修を行っています（写真2）。



写真1 認定看護師会定例会議



写真2 研修会の様子

また、2003年から認定看護師教育課程臨地実習施設として、日本看護協会看護研修学校の集中ケア学科の研修生を毎年受け入れ、臨地実習指導者として相談やアドバイスなどの支援を行っております。当院で実習した研修生は、北海道から沖縄までと日本各地から来盛しており、現在は各施設で集中ケア認定看護師として活躍しています。研修生からは、看護師間だけでなく、医師や他のメディカルスタッフとのコミュニケーションがはかられ連携がよく取れており、スタッフはみんな自己研鑽に励んでいるという感想をもらっています。社交辞令もあるとは思いますが、このような評価が得られたことは、私たちの活動の励みになっています。また、他施設の看護師を研修生として受け入れることは、看護師個々の看護の質向上へのモチベーションを高めることにもつながっています。

院外活動では、岩手県看護協会の現任研修の講師や、2005年からみちのくレスピラトリ・ケア・カンファランス（MRCC）の立ち上げに関わり、当院の救急看護認定看護師や東北各県の幹事の皆さんとともに企画運営を行っています。昨年は、人工呼吸器を装着した患者の疑似体験を行うことで、人工呼吸器装着に伴うケアを考えるための研修を2回行い好評を得ました。

集中ケア認定看護師の活動が、直ちに患者の予後の改善や在院日数の短縮に関与しているかは明確にはできません。そのため、残念ながら現在のところ私たちの活動は診療報酬に反映するものにはおきませんが、今後も2人で知識を共有し意見交換しながら、チーム医療の一翼を担い急性期、重症患者回復に向けた最適な看護の提供に努め、他の認定看護師や医師、メディカルスタッフなどの協力を得ながら看護の質の向上に貢献できるように努力したいと考えておりますので、ご指導をよろしくお願い致します。

# 表彰の榮譽

## 平成21年度春の叙勲「瑞宝中綬章」を受章

### 佐藤 俊一 名誉学長・名誉教授

佐藤先生は昭和38年3月東北大学大学院医学研究科修了後、昭和41年11月本学医学部内科学第一講座助手に任用、昭和43年1月同講師、昭和53年7月同助教授を経て、昭和59年8月同教授に就任、平成11年4月名誉教授の称号が授与されました。この他、附属病院院長、医学部長、副学長と本学の要職を歴任された後、平成16年1月本学学長に就任し職責を果たされ、平成20年3月名誉学長の称号が授与されました。また、平成4年4月から平成20年1月まで本法人理事を務められ、同時に就任された本法人評議員を現在も務められています。



研究面では、専門の消化器・肝臓内科学において、劇症肝炎の全国実態調査を実施し、その病態を明らかにし救命率を向上させたほか、C型肝炎ウイルスに感染後、約20数年を経て肝細胞癌に至ることをドイツの腫瘍学会で発表するなど、多大な功績が評価されました。

### 一戸 孝七 名誉教授



一戸先生は昭和32年3月東北大学理学部数学科を卒業、青森県内の中学・高校の教諭を務められ昭和39年4月一関工業高等専門学校助教授を経て、昭和44年4月本学教養部数学科教授に就任されました。また、昭和52年6月本学教養部長、昭和54年4月本法人評議員を歴任され、平成9年4月名誉教授の称号が授与されました。また先生は、昭和54年8月教養部の公開講座を開設し、地域に開かれた大学づくりにも尽力されました。

研究面では、専門の数学分野において、微分幾何学専攻の知識を生かし「数学の医学への応用」についての独創的研究を行いパイオニア的仕事を果たすなど、多大な功績が評価されました。

### 亀田 務 名誉教授

亀田先生は昭和24年5月日本大学専門部歯科を卒業、日本大学歯学部理工学教室、国立衛生試験所勤務を経て、昭和32年4月日本大学歯学部助手に任用されました。昭和34年4月同講師、昭和39年4月同助教授を経て、昭和41年1月本学歯学部歯科理工学講座教授に就任され、平成9年4月名誉教授の称号が授与されました。



研究面では、専門の歯科理工学において、歯内療法に関する材料の研究、特に根管治療に用いられる充填用ガッタパーチャの改良に精力的に取り組み、安定した治療成績を可能としました。世界的に新しい根管充填システムの先駆者として、多大な功績が評価されました。

※ガッタパーチャ……天然ゴム（樹脂）性の根管充填材で、根管充填治療に際し、最も頻繁に使用されている歯科用材料。

### 立木 孝 名誉教授



立木先生は昭和26年3月東北大学医学部卒業、昭和27年3月東北大学医学部附属病院にて実地修練を修了後、同年8月東北大学助手（医学部附属病院）に採用されました。昭和32年5月弘前大学に出向し同大学講師（医学部附属病院耳鼻咽喉科）に昇任、昭和33年2月同大学助教授（医学部耳鼻咽喉科学教室）を経て、昭和41年10月本学耳鼻咽喉科学講座教授に就任、平成8年4月名誉教授の称号が授与されました。

研究面では、専門の耳科学・聴覚医学において、世界で初めてストレプトマイシンによる高度難聴発現には遺伝が関与することを研究発表されたほか、治療により聴力の改善が難しいとされていた感音難聴の中で急性感音難聴は改善することを初めて報告（病名を「突発性難聴」と呼ぶ）するなど、多大な功績が評価されました。

## 涌澤 玲児 名誉教授



涌澤先生は昭和30年3月本学本科卒業、昭和31年3月本学附属病院にて実地修練を修了後、同年5月本学医学部外科学第一講座副手に採用されました。昭和33年10月本学麻酔学講座助手に任用、昭和36年1月同講師、昭和38年5月岩手県立中央病院麻酔科長を経て、昭和40年5月本学麻酔学講座講師に再任用、昭和41年2月同助教授に昇任し、昭和49年12月同教授に就任されました。平成9年4月本学図書館長を務められ、平成11年4月名誉教授の称号が授与されました。

研究面では、専門の麻酔科学において、安全な開心術のための麻酔法の研究に情熱を注ぎ、低体温麻酔を開発し、心臓外科発展に寄与しました。また、慢性の難治性疼痛患者、緩和ケアの患者の疼痛対策に尽力し、疼痛患者のQOL向上に努め、疼痛対策先駆者として東北地方においてその指導力を発揮されるなど、多大な功績が評価されました。

## 表紙の紹介

三田定則先生の署名入り写真と胸像は、緒方正名先生（岡山大学名誉教授；右写真）よりご寄贈いただきました。（平成21年5月寄贈）

緒方正名先生のご祖父の緒方正規先生は、東京帝国大学発足時の七人の医科大学教授の一人であり、三田定則先生は教え子の一人になります。また、ご尊父の緒方益雄先生は、三田定則先生



緒方正名先生

が東京帝国大学医科大学教授時代に弟子の一人として薫陶を受け、官立岡山医科大学（現岡山大学医学部）の衛生学初代教授になりました。なお、緒方正名先生も岡山大学医学部の公衆衛生学教授、医学部長を歴任された方です。

左写真は昭和9年3月31日に東京會館にて撮影されたもので、三田定則先生（前列左から6人目：当時58歳）、緒方益雄先生（前列左端：当時42歳）と東京帝国大学講師時代の篠田糺先生（三列目右端：当時41歳）が見受けられます。

この度は、緒方家と三田定則先生との縁から、写真と胸像をご寄贈いただきました。本学にとって貴重な財産となるものであり、今後は末永く大切に保存し、後世に伝えていきたいと思っております。この度のご寄贈に対して心から御礼申し上げます。

### <三田 定則（本法人第二代理事長・校長／本学初代学長）>

明治9年1月生まれ。明治34年東京帝国大学医科大学医学科卒業。大正7年東京帝国大学医科大学教授、昭和12年台北帝国大学（現台湾大学）総長を歴任。養父三田俊次郎（本法人初代理事長・校長）が創立した岩手医学専門学校の第二代校長となり、大学昇格に尽力される。岩手医科大学に昇格した初代学長。

### <篠田 糺（本法人第五代理事長／本学第四代学長）>

明治25年7月生まれ。大正6年東京帝国大学医科大学医学科卒業。昭和12年東京帝国大学助教授、昭和14年東北帝国大学教授、昭和23年東北大学医学部附属病院長及び東北大学評議員を歴任。昭和31年本学第四代学長、昭和32年本法人第五代理事長。昭和41年5月勲二等瑞宝章受章、昭和49年11月日本医師会より医学教育功労者として最高優功賞受賞。

# 岩手医科大学募金状況報告

平成20年3月から始めました矢巾キャンパス緑化事業募金に対し、格別のご理解とご支援を賜りました皆様方お一人おひとりに、厚く御礼を申し上げます。

この度は本募金にご協力をいただいた皆様のご厚志に感謝し、皆様のご芳名を掲げた寄付者銘板を矢巾キャンパスに設置いたしました（右下写真）。皆様のご芳名は、末永く顕彰させていただきます。

今後とも関係各方面からの格別なるご協力・ご支援を賜りますよう衷心よりお願い申し上げます。

## ● 矢巾キャンパス緑化計画事業募金

今回は6回目の御芳名紹介です。（平成21年3月17日～平成21年4月20日）

一戸孝七（元職員） 及川忠人（医 20）  
小野寺 耕（医 38）（受付順、敬称略）

### これまでの募金累計額

区分	申込件数	募金金額(円)
圭陵会	114	49,580,000
父母	16	1,880,000
役員	9	1,740,000
教職員	75	5,110,000
一般	11	1,050,000
学生	2	60,000
合計	227	59,420,000



矢巾キャンパスロータリーの植栽内に設置された寄付者銘板

## 省エネ推進委員会だより

私達が普段生活する中で、ほんの少し省エネについて意識して生活するだけでも『省エネ活動』はできます。そのような身近にできる省エネ活動について、今号と次号の2回に分けてご紹介します。

### <身近にできる省エネ活動>

- ①  テレビを見ないときは消す。
- ②  PC を使わない時は電源を切る。
- ③  エアコンの運転を1日1時間短縮する。
- ④  冷房の設定温度を1℃上げる。  
暖房の設定温度を1℃下げる。
- ⑤  使っていない電気製品のプラグを抜く。

### <省エネ効果>

-   8Lの省エネ  ￥ 700の節約
-   8Lの省エネ  ￥ 700の節約
-   15Lの省エネ  ￥1,310の節約
-   20Lの省エネ  ￥1,800の節約
-   70Lの省エネ  ￥4,900の節約

※①～④は1台あたり、⑤は1部屋あたりの年間省エネ効果

まずは、身近なところから省エネについて心掛けてみましょう。

# 平成21年度 事業計画

私立大学を取り巻く状況は、18歳人口の減少に伴い大学全入時代を迎え、私立大学の47%が入学定員を割込み、経常的経費を帰属収入で賄えない状況に陥るなど、非常に厳しい経営環境下にあります。このような環境下において、平成21年度から本学医学部の入学定員が110名に増員することになったことは、本学の更なる発展への契機となります。

これに伴い、平成21年度においては、医・歯・薬学部の連携を強固にした魅力ある教育研究環境の整備を行い、また、教育の質を保証する効率・効果的な講義・実習のあり方も検討し教育体制の整備を進め、大学全入時代においても、受験生を確保し、地域医療を担う医師、歯科医師、薬剤師を輩出するための取り組みが肝要です。

収入面においては、本学の帰属収入の約7割を医療収入が占めていることから、高度医療の提供などによる平均診療単価の増額や患者等への環境整備を行うなど一層の患者確保に努め、また、学生生徒等納付金の占める割合が年々増しているため、積極的な広報活動を展開し、入学定員の学生確保に努めなければなりません。

以上の方針により、平成21年度事業計画を教職員一丸となって推進するものとします。

※本紙掲載内容は、平成21年度事業計画書より抜粋したものです。詳しい内容に関しては、平成21年度事業計画書及び本学ホームページ「情報公開」を参照ください。

## 1. 総合移転整備計画関係

- ①動物実験センターを移転し、充実した環境の共同研究施設を整備
- ②医学部・歯学部の講義棟、実習棟、基礎部門を中心とした研究棟の移転整備
- ③矢巾地区に本邦で2台目となる7テスラMRIを設置し、国際的研究拠点を形成
- ④医学部学生定員が110名となるため、講義室、実習室等の教育環境の整備ならびに実習用機器の整備
- ⑤附属病院の早期移転を実現するため、C敷地の平成22年市街化区域編入へ向けた取り組みと購入手続きの着手
- ⑥図書館システムを紙媒体から電子情報までをトータルに管理するシステムに向けての取り組み
- ⑦矢巾キャンパス緑化計画事業を継続し、魅力あるキャンパスづくりを推進

## 2. 教育、研究、医療関係

- ①戦略的大学連携支援事業「いわて高等教育コンソーシアム」の推進
- ②戦略的大学連携支援事業「口腔医学の学問体系の確立と医学・歯学教育体制の再考」の推進
- ③「地域医療に貢献する「誠」の医師の育成プログラム」の実施
- ④医師国家試験の上位合格率維持、歯科医師国家試験の合格率向上
- ⑤医・歯・薬の三学部を擁する医療系総合大学である特徴をアピールして受験生を確保
- ⑥歯学部の講座再編を行い、歯学部が充実発展する基盤を形成
- ⑦薬学部6年制教育への対応
- ⑧歯科技工専門学校、歯科衛生専門学校の受験生の確保と国家試験合格率の高位維持
- ⑨私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の推進
- ⑩ハイテク・リサーチ・センター整備事業、オープン・リサーチ・センター整備事業の推進
- ⑪科学技術試験研究委託事業オーダーメイド医療実現化プロジェクトの推進
- ⑫全病棟へのクランクの配置
- ⑬大学附属病院と附属循環器医療センター統合による病院運営
- ⑭病院患者情報システム確立へ向けての整備
- ⑮医療費削減に向けた取り組みと物流システムの整備
- ⑯都道府県がん診療拠点病院としての取り組みの強化
- ⑰平成22年度開設予定の放射線治療施設整備に向けての取り組み
- ⑱歯科医療センターにおける診療科の再編

## 3. 施設設備関係

- ①緑ヶ丘グラウンドフラワー棟他の解体工事
- ②6号館東側外壁剥離落下対策修繕工事
- ③電源装置の劣化並びに供給部品の廃番による高度救命救急センター電気室電気機器制御用直流電源装置の更新
- ④トイレの整備、風呂の改修など患者等への環境を配慮した改修整備
- ⑤経年劣化に伴う歯科衛生専門学校の機器の更新
- ⑥歯科衛生専門学校の学生環境整備と4階ベランダ落下防止対策工事

# 平成21年度 予算

平成21年度予算は、予算委員会の議を経て3月30日に開催された理事会及び評議員会において承認され成立しました。以下予算の概要について報告します。

なお、予算の詳細について説明・確認を希望される方は、財務部経理課に照会願います。

## 予算編成にあたって

大学経営は、18歳人口の減少に伴い学生確保が非常に難しい状況となってきています。47%の私立大学では入学定員を充足できず、経常経費を帰属収入で賄えない状態になるなど、経営悪化が懸念されている私立大学が37%にも達しています。反面、一部の大学では志願者の減少が見られず、大学の教育力、研究力などその特色で大学は選別される時代となってきています。

このような環境下においても、本学は常に教育・研究・医療の活性化と質的向上を目指していかなければなりません。

社会的問題となっている医師不足の解消のため文部科学省は医学部入学定員の増員を認め、本学では平成21年度から110名への入学定員増が認可されました。これに伴い医師不足が深刻な地域や診療科の医療を担う医師養成のため、施設設備の整備と共に更なる教育環境の改善に取り組まなければなりません。また、歯

学部及び薬学部については、全国的に志願者が減少傾向にあり、その確保に努める必要があります。

本学の帰属収入の約7割を医療収入が占めていることから、財政基盤を更に強化するためには、高度医療の提供などによる診療単価の増額や一層の患者確保に努め、増収を図らなければなりません。

そして、総合移転整備事業は、第二次事業として医学部・歯学部の基礎部門を中心とした学部移転を行うこととし、平成21年度に着工することを決定しました。また、今後附属病院移転の早期実現を図るためには多額の資金を必要とすることから、事業資金の確保に努めなければならないところです。

予算編成にあたっては、理事会が決定した諸施策を着実に実行し、教育・研究・医療活動が円滑に遂行できるよう配慮しつつ、自主財源の拡大を図ると共に、経常的経費の厳しい節減に努める圧縮した予算編成としました。

## 主な予算項目

平成21年度消費収支予算の主な項目について説明します。

収入予算は、学生納付金72億168万円（帰属収入に占める割合17.5%）、医療収入274億1,582万円（同66.6%）、補助金27億6,555万円（同6.7%）を計上しました。これら3項目で帰属収入の90.8%を占めております。その他の収入は37億7,116万円（同9.2%）を計上し、基本金34億円を組み入れたことにより、消費収入予算総額は377億5,421万円となりました。

支出予算では、人件費192億7,219万円（消費支出に占める割合50.1%）、医療経費（医薬品費、医療材料費、給食材料費）100億1,269万円（同26.0%）、その他の諸経費等91億6,933万円（同23.9%）を計上し、消費支出予算総額は384億5,421万円となりました。

消費収入から消費支出を差し引いた消費収支差額は、△7億円であり、本年度は支出超過（赤字）の予算編成となりました。

本学の財政は、帰属収入の約66.6%を医療収入に委

ねており、また支出においては、人件費（50.1%）と医療経費（26.0%）で約76.1%を占めております。財政基盤の確立には引続き医療収入の増収と医療経費の適正・効率化を念頭に入れ、教職員一人ひとりが経費全般の節減に努めていかなければなりません。

### 1. 学生納付金

学生納付金は入学金、授業料、実験実習費、教育充実費、施設整備費からなっており、医学部33億7,515万円、歯学部26億9,481万円、薬学部9億7,831万円、歯科技工専門学校5,285万円、歯科衛生専門学校1億56万円、合計72億168万円を計上しました。

### 2. 医療収入

附属病院（医科）、附属病院（歯科）、循環器医療センター、花巻温泉病院を合計した医療収入予算は、入院収入213億2,928万円、外来収入58億5,706万円、その他の医療収入2億2,948万円、合計274億1,582万円を計上しました。

### 3. 補助金

経常費補助金は19億5,000万円、臨床研修費補助金等その他の国庫補助金は1億4,805万円を計上しています。また、地方公共団体補助金は、高度救命救急センター運営費補助金、病院群輪番制運営費補助金等を合わせて6億6,750万円を計上しており、補助金は合計27億6,555万円を計上しました。

### 4. 人件費

給与・諸手当・所定福利費等の人件費は定期昇給分1.0%を見込んで179億961万円計上し、また退職金関係では退職金、退職給与引当金繰入額に13億1,134万円等を計上して、合計192億7,219万円となりました。

### 5. 医療経費

附属病院合計の医療経費について、医薬品費は、対医療収入割合18.1%の49億6,355万円、医療材料費は同17.6%の48億2,071万円、給食材料費は同0.8%の2億2,843万円を計上したことにより、医療経費合計は100億1,269万円（経費率36.5%）の計上となりました。

### 6. 研究費

歯学部・講座研究費は口腔インプラント学科の新設に伴い、基本額を調整することとしました。医学部・

薬学部・共通教育センターの講座研究費及び個人研究費である特別研究費、学会旅費の予算は前年度と同額としました。なお、今年度から任期付助教に特別研究費を付与することとしました。

### 【施設関係等の予算は次のとおりです】

#### 1. 施設関係

建物・建物附属設備等では、東病棟電気室制御用直流電源装置更新工事2,000万円、及びその他工事2億8,000万円、合計3億円を計上しました。

また、建設仮勘定では矢巾キャンパスへの医学部・歯学部基礎部門を中心とした学部移転事業と動物実験施設の整備費に15億円、放射線治療施設の整備費に7億6,500万円、また7テスラMRI研究施設の整備費に3億500万円、合計25億7,000万円を計上しました。

#### 2. 設備関係

教育、研究、診療、管理用機器備品購入予算として、20億5,000万円を計上しました。このうち7テスラMRI装置購入予算を8億5,000万円としました。また、図書購入費には3,510万円（電子ジャーナルを除く）を計上しました。

### 平成21年度 消費収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金	7,201,680	人件費	19,272,190
手数料	164,500	医療経費	10,012,690
医療収入	27,415,820	消耗品費	885,890
寄付金	1,997,000	光熱水費	923,990
補助金	2,765,550	旅費	225,650
資産運用収入	297,380	修繕費	636,210
事業収入	672,940	業務委託費	2,107,200
雑収入	639,340	減価償却額	2,340,030
帰属収入合計	41,154,210	その他の諸経費等	1,850,360
基本金組入額合計	△ 3,400,000	予備費	200,000
消費収入の部合計	37,754,210	消費支出の部合計	38,454,210
当年度消費支出超過額	700,000		

### 平成21年度 資金収支予算書

(単位：千円)

収入の部		支出の部	
科目	金額	科目	金額
学生生徒等納付金収入	7,201,680	人件費支出	19,361,190
手数料収入	164,500	諸経費支出	16,520,120
医療収入	27,415,820	施設関係支出	2,870,000
寄付金収入	1,892,000	設備関係支出	2,085,100
補助金収入	2,765,550	資産運用支出	4,003,000
資産運用収入	297,380	その他の支出	2,699,480
資産売却収入	2,000,000	予備費	400,000
事業収入	672,940	資金支出調整勘定	△ 2,215,570
雑収入	639,340	次年度繰越支払資金	13,398,800
前受金収入	1,521,370		
その他の収入	7,656,850		
資金収入調整勘定	△ 7,105,310		
前年度繰越支払資金	14,000,000		
収入の部合計	59,122,120	支出の部合計	59,122,120

## ●平成21年度入学式を挙行

岩手医科大学入学式が、4月9日(木)午前10時から岩手県民会館大ホールで行われました。今年度の入学生は、大学院医学研究科博士課程59名、修士課程6名、歯学研究科博士課程5名、医学部110名、歯学部60名、薬学部172名でした。

式では、開式の辞、国歌斉唱に続き、入学生一人ひとりの名前が読み上げられ、小川学長が入学の許可を宣言しました。続いて、医学部の佐々木登希夫さん(写真：左)と歯学部の筑田洵一郎さん(写真：右)、薬学部の山本泰史さん(写真：中央)が代表で宣誓し、「岩手医科大学の建学の精神に則り学則を守り学生の本分を全うすること」を誓いました。

また、岩手医科大学歯科技工専門学校と岩手医科大学歯科衛生専門学校の合同入学式が4月4日(土)午前10時から本学講堂において行われました。今年度の入学生は、技工専門学校30名、衛生専門学校46名で、両校の教職員・父母・在学生が見守るなか、技工専門学校の尾野拓也さん(写真：右)と衛生専門学校の川村都さん(写真：左)が入学生宣誓を行いました。



岩手医科大学入学式



歯科技工専門学校・歯科衛生専門学校合同入学式

## ●新採用職員辞令交付式が行われる

本法人の平成21年度新採用者に対する辞令交付式が4月1日(木)本学講堂において行われ、採用者195名が辞令書の交付を受けました。

式典では、新入職員全員の呼名の後、新入職員を代表して、中央手術部看護師の滝吉星子さんが辞令を受けました。続いて、大堀理事長から式辞があり、医学部脳神経外科学講座助教の佐藤雄一さん(右写真)が「夢や希望を忘れず、高い志を持ち日々前進していきます」と宣誓しました。

辞令交付後は職種ごとに分かれてオリエンテーションが行われ、新入職員の皆さんは熱心に耳を傾けていました。これらのオリエンテーションに参加した3名の方の感想をご紹介します。



### ◆採用者内訳は次のとおりです

助教22名、助手11名、ポスト・ドクター2名、専門研修医15名、臨床研修医13名、臨床研修歯科医32名、事務員8名、薬剤師11名、臨床検査技師4名、診療放射線技師4名、臨床工学技士5名、歯科衛生士4名、歯科衛生専門学校教員1名、バイオイメーjingセンター技術員補1名、看護師62名

## 新人職員教育研修会を受けて

### ● 西6階A病棟看護師 米田 有里



今回新人職員教育研修を受けて、多くのことを学びました。最初のビジネスマナーでは、社会人としての基本を教えていただき、患者さんにも職場にも活かしていきたいと思いました。言葉遣いでは、丁寧語や尊敬語、謙譲語の間違いを直すことが難しかったです。普段の言葉遣いにも間違えているものがあるのだろうと気付きました。また、学長から岩手医科大学の理念である「不撓不屈、誠の人間の精神」について教えていただきました。

私は患者さんをはじめ、人との関わりでは人間性がとても重要だと思います。そのため、これからたくさん

人と関わり、感性を豊かにし、成長できるように頑張りたいです。

そして岩手医科大学について学んだことで、職員としての自覚が一層高まりました。また、チーム医療についても教えていただきました。学長の「チームのたった一人の心ない行為が、全体の信頼を全て壊す。」という言葉は、とても印象的でした。それほどチーム一人ひとりの役割と責任は大きいのだと感じました。私もチーム医療の一員となったので、看護師の役割を知り、責任をきちんと果たしていきたいです。

今回の新人職員教育研修では、岩手医科大学の基本理念から諸設備と使用方法まで丁寧に教えていただけただけで驚きました。学んだことは、職場や普段の生活に活かしていきたいです。充実した新人職員教育研修をありがとうございました。

### ● 中央放射線部診療放射線技師 遊佐 和史



この度岩手医科大学職員として採用していただき、本当に嬉しく思い、大きな期待を抱いております。しかし、学生時代とは異なる環境や初めての地での生活など不安に思うこともありました。今回の研修では、不安を抱えながらのものでしたが、それぞれのプログラムでそれが払拭できたような気がします。

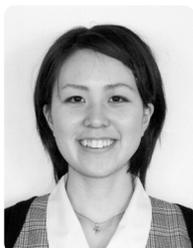
ビジネスマナーでは、病院職員の前に一社会人としての立ち居振舞いを学び、自分達一人ひとりの姿が岩手医科大学を代表する者として相手に捉えられていることを知り、気を引き締めて接遇せねばと奮起いたしました。

小川学長を始めとする諸先生方の講話では、岩手医科大学がどのような組織であり、何の目的のために動いているのかを聞き、自分達の共通認識として働くことを考えました。その他、病院内で起こりうるリスクやヒューマンエラー等のインシデント、アクシデントに対する取り組み、心構えを示していただき、自分達がどれだけ大切な業を担っているかを認識いたしました。

新人研修としまして、三日間に渡るプログラムを受講し、岩手医科大学職員として、医療に携わる人間としてどのように振舞えばよいのかを諸先生方よりご教授いただき、身の引き締まる思いでいます。今後とも今回感じた気持ちを忘れず、自分の配属部署にて、岩手医科大学の名に恥じない職務を全うしていきたいと考えております。

お忙しい中、誠にありがとうございました。

### ● 歯学部教務課事務員 阿部 千秋



新入職員研修を受けて、社会人になるとは、岩手医科大学の職員になるということはどういうことなのか、さらに、岩手医科大学の歴史など多くのことについて知ることができました。

まず、岩手医科大学が岩手県の医療を担う唯一の大学であるということを改めて感じました。大学の創立者である三田俊次郎先生の岩手県における医療の貧困を何とかしようという思い、岩手医科大学が今までに築いてきた長い歴史、さらに、現在も発展し続けている大学であることを知り、岩手県における医療発展のために岩手医科大学の職員の一員として働けるこ

とに誇りを持ちたいと思いました。

また、何度も耳にした「誠の人間」という言葉がとても印象に残りました。私は「誠の人間」とは岩手医科大学に所属する全ての人が常に目指すものであり、決して簡単に達成できるようなものではないのだろうと感じました。自分にも他人にも嘘をつくことなく、自分の周りの人々や一つひとつの仕事など、全てに対して誠心誠意関わっていききたいと思います。

最後に、看護師や薬剤師など様々な新採用者の方たちと共に新入職員研修を受けたことで、岩手医科大学は多くの職員によって動いているということを実感しました。

私の関わる業務でのつながりだけではなく、岩手医科大学に関わる全ての人とのつながりを大切にする気持ちを持ちながら、これから頑張っていきたいと思います。

## ● 小野美知子 准教授 東北大学大学院文学研究科博士の学位を授与

本学共通教育センター外国語学科（英語分野）の小野美知子准教授が、平成21年3月25日に東北大学大学院文学研究科より博士の学位を授与されました。

論文の題名は“Nature and Art in Thoreau's Educational Philosophy”（ソローの教育哲学における自然と芸術）です。英文学における博士号取得者の数は極めて少なく、大正13年に英文学研究室が開始されて以来、小野先生で9人目であります。

小野先生は「博士論文に取り組み始めてからの3年間は、コンピューターの故障、USBの保存情報の消失など多くの障害に見舞われました。審査は厳しいものでしたが、優れた指導教官に恵まれたのは幸運だったと思います。」と感想を述べられました。



## ● 認知症疾患医療センターが開設される



看板を掲げる小林病院長（左）と千葉保健福祉部長（右）

平成21年4月30日(木)から本学附属病院中病棟1階に「認知症疾患医療センター」が開設されました。これは認知症医療の向上のため、岩手県が本学附属病院を4月1日付けで「認知症疾患医療センター」として指定し、事業委託したためです。同日に行なわれた開設式では、小林附属病院長と千葉保健福祉部長のあいさつの後に、センターの看板が掲示されました。

同センターは、認知症プロジェクトに基づく国庫補助事業であり、本学内科学講座（神経内科・老年科分野）の寺山靖夫教授がセンター長を務めます。同センターの開設により、医療と介護の連携拠点として、本県における認知症医療の向上が期待されます。

## ● 総合安全対策講習会が行われる

今年度初めてとなる総合安全対策講習会が、5月19日(火)、5月22日(金)、5月25日(月)、6月4日(木)、6月6日(土)の5回にわたって本学講堂にて行われ、合せて2,135人が参加しました。

今回の講習会は、院内における総合的な医療安全対策をテーマに行われたもので、総論については佐藤讓医療安全管理部長、医療事故防止対策については高橋智医療安全推進室長、院内感染制御システムについては櫻井滋感染症対策室長、医薬品安全管理については工藤賢三医薬品安全管理責任者がそれぞれ講演しました。

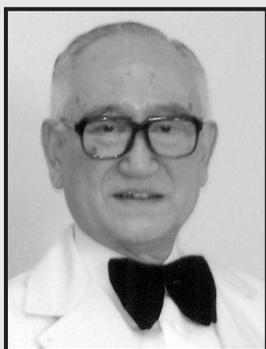
また、5月19日(火)の講習会では、平成20年度医療安全表彰者と今回が初となる感染対策表彰部署の表彰が行われました。感染対策表彰部署とは、(1)活動を積極的に行った部署

(2)画期的な感染対策に関わるシステム等を発案した部署 (3)積極的に講習会に参加した部署 を基準に選定された部署で、今回は(1)中7階病棟 (2)集中治療部 (3)歯科衛生部 がそれぞれ選ばれ表彰されました。また、平成20年度医療安全表彰者は、形成外科学講座の柏谷元助教、臨床工学室の泉田拓也主任臨床工学技士、東6階の猪股理恵看護師、看護師部会・インシデント報告要因分析グループが選ばれました。



佐藤部長から表彰を受ける猪股看護師

# 本学名誉教授 佐藤 誠 先生の逝去



本学名誉教授の佐藤誠先生におかれましては、4月27日(月)午前9時にご自宅において逝去されました。享年80でした。

佐藤先生は昭和29年3月に本学医学部を卒業後、昭和30年5月本学医学部生理学講座助手に任用されました。その後、昭和33年11月同講師、昭和43年2月オレゴン大学准教授を経て、昭和50年9月本学医学部生理学講座教授に就任されました。平成6年には本学図書館長を務められ、平成10年4月に名誉教授の称号が授与されました。

先生は生前、米国滞在時から神経生理学の分野においてシナプス伝達機構並びにその修飾・変化を起こす分子機構に関する広範な研究を行い、神経生理学、特にシナプス伝達機構に関わる調節と制御機構の解明に寄与しました。

ここに謹んで哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。また、ご遺族より、本学学術振興資金へのご寄付を頂いております。この度のご寄付に対し、心から御礼申し上げます。

## 理事會報告

### ■ 3月定例（3月30日開催）

1. 平成20年度補正予算について
2. 平成21年度予算について
3. 平成21年度事業計画について
4. 役員を選任について

#### <再任>

附属病院副院長	酒井 明夫
附属病院副院長	藤岡 知昭
附属病院副院長	佐藤 謙
学生副部長（歯学部）	國松 和司

#### <新任>

附属病院副院長	岡林 均
附属病院副院長	城 茂治

（任期 平成21年4月1日から平成24年3月31日まで）

5. 名誉教授の称号授与について  
本年3月31日をもって定年退職する共通教育センター心理学科の田中潜次郎教授に対し、名誉教授の称号を授与。
6. 寄附行為細則の一部改正について  
本法人寄附行為第7条第1項第5号理事の選任にあたり、役職者による理事候補者に「薬学部長」を新たに追加。

（施行年月日 平成21年4月1日）

7. 教職員の人事について

#### <任用>

法医学講座教授	出羽 厚二
（前新潟県赤十字血液センター医務課）	
歯学部口腔生理学講座教授	佐原 資謹
（前鶴見大学歯学部准教授）	
歯学部口腔インプラント学科准教授	近藤 尚知
（前東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科助教）	
（発令日は、割愛状況により決定）	

#### <昇任>

共同研究部門医療開発研究部門
嘱託教授 前沢 千早（前嘱託准教授）
共同研究部門超高磁場MRI診断・病態研究部門
嘱託教授 佐々木 真理（前准教授）
内科学講座（循環器・腎・内分泌分野）
嘱託准教授 佐藤 衛（前講師）
（平成21年4月1日付）

8. 職員就業規則の一部改正について  
健康管理センターの体制の改正、管理監督者の職に係る文言の整理及び追加に伴う改正。  
（施行年月日 平成21年4月1日）
9. 組織規程の一部改正および組織機構図の一部改訂について  
平成21年4月1日付の大学附属病院と循環器医療センターの統合に伴う診療科名称を「心血管・腎・内分泌内科」に変更。がん診療連携拠点病院指定要件の整備、腫瘍センターの独立、人間ドック室・脳ドック室の位置づけを改訂。  
（施行年月日 平成21年4月1日）

### ■ 4月定例（4月27日開催）

1. 大学院学則の一部改正について  
大学院学則と同様に、大学院学則においても学納金を分納できることに改正。  
（施行年月日 平成21年5月1日）
2. 附属病院組織規程の一部改正について  
循環器医療センターの診療科5科のうち診療科部長が配置されていない3科について診療科部長を置く。また、循環器診療部門の集中治療室「CCU」と「ICU」各室に室長を置く。  
（施行年月日 平成21年5月1日）

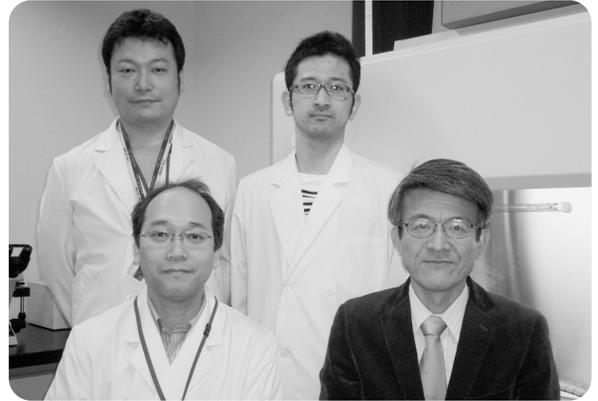


### 衛生化学講座

「衛生化学」は薬学以外の方には耳慣れない言葉と思いますが、薬学では古く伝統のある学問分野あるいは講座の名称です。その中身は栄養、食品、環境などに関する化学で、本学の講義では疫学や保健統計といった公衆衛生学分野も担当しています。本年4月に講座の全教員4名がそろい、矢巾キャンパスという素晴らしい環境のもとで、教育に研究にフル活動を始めました。

私達の研究内容は、今のところ講座名とは少し離れていて、主に糖尿病性腎症などの腎臓病を対象としています。これまで、腎由来の培養細胞や疾患動物モデルを用いて、病態の解明や薬物の治療効果の研究を行い、臨床の先生方との共同研究もいくつか手がけてきました。また実験手技としては遺伝子工学、細胞培養から病理形態学、免疫

組織学と幅広く用いています。本学でも医学部、歯学部の先生方との共同研究を積極的に進めていきたいと考えていますので、どうぞよろしく願いいたします。  
(教授 名取 泰博)



### リエゾンセンター事務室

本学の個性と総合力を活かした学術研究の振興とその成果の社会への還元を目的に、平成19年4月「知的財産本部」と「リエゾンセンター・リエゾンセンター事務室」が新設され3年が経ちまし



た。その間に当事務室は、建学精神のもと知的財産・産学官連携活動の理念となる「岩手医科大学産学官連携ポリシー」を制定し、そのポリシーに沿って「職務発明規程」等の関係規程を整備しました。

現在の主な活動は、特許化活動（発明相談、発明の発掘、先行技術調査、技術評価、特許出願、特許維持、特許管理）、技術移転活動（企業ニーズと大学の研究、技術シーズをつなぐコーディネーター、契約書作成、契約交渉締結、ロイヤリティ収入の発明者への還元）等をスタッフ一丸となって取り組んでおりますので、今後ともご指導・ご支援の程よろしく願いいたします。

※業務等の詳細は、大学報393号の特集をご参照ください。  
(係長 早川 信)

### 看護部(NICU)

NICUは、看護スタッフNICU 52名（新生児集中ケア認定看護師1名）、保育室15名の計67名で対応しています。NICUには、岩手県、内・外から多くの早産児、ハイリスク児が搬送されてきます。年間の入院患者数は、200名前後で、その中で約1割の児が1,000g未満の超低出生体重児、約2割が1,500gの極低出生体重児で占められています。

フロア内では、状況に応じて検査や処置、緊急手術などが行われるため、スタッフは緊張した状況で勤務していますが家族の方には、笑顔で、児の状況を十分説明し不安や疑問を軽減できるような関わりを心がけています。小さな命を守り、育てるために、新生児集中認定看護師を中心とした質の高い看護と、母親や父親のようなやさしい看護の提供に努めています。また、母親は長期の

母児分離を余儀なくされるため育児不安が強く24時間体制の電話相談や継続看護につなげるため保健所および保健師との連携にも力をいれています。  
(看護師長 熊谷 ちえ)



## 駒のささやきを聞く

薬学部分子生物薬学講座 助教 牛島 弘雅

囲碁も将棋も下手なりに長く続いている趣味の一つですが、ゲーム自体よりもそこで使う道具、特に将棋の駒を鑑賞する方がもっと好きです。きっかけは、専門誌に載っていた駒の写真です。それはプロのタイトル戦で使用される駒だったのですが、その流麗で、かつゆったりとした書の美しさ・飴色の輝きにすっかり魅了されてし



飾り駒作成中の筆者

まいました。

一口に駒といってもその種類は大変豊富で、駒木地、書体、仕上げなどの違いによってそれぞれの駒の特徴がでます。一般に最も美しいとされるのは木地にツゲを用い、盛上（もりあげ：文字を彫った跡を漆で埋め、さらに漆で文字を立体的に盛り上げる）という手法で仕上げた駒です。プロの対局では盛上駒を使用します。駒の作者次第では百万円を超えるものも珍しくありません。自分にとっては宝石のようなものです。

駒好きなら一度は訪れたい聖地が、日本一の駒の産地・山形県天童市です。私も実際にこの目で名駒を見たいと、将棋資料館を訪ねました。ここでは将棋の歴史から駒作りの工程を学ぶことができます。珍しいものでは、古将棋といって、現在よりもマス数が多く（25×25マス→現在9×9マス）、駒の種類も豊富な将棋が幾つも展示してあります。盤面が異様に広く、持ち駒（取った相手の駒を自分の駒として使える）のルールが無いのも特徴です。駒作りのコーナーでは、コレクター垂涎の名立たる駒師達の作品がズラリと展示してあり壮観です。作者ごとに異なる駒の表情をじっくり堪能しました。

駒作りはアマチュアの間でも盛んで、素晴らしい作品がたくさんあります。これからもたくさんの駒に出会い、いつか駒作りにもチャレンジしたいなあと思っています。

## カレーライス

人事職員課 事務員 丸一 裕介

カレーライスは、食材をさまざまなスパイスで味付ける習慣のインド料理がルーツである。明治時代の日本に、当時インドを植民地支配していたイギリス料理として紹介され、その後日本で独自の進化をした。（出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』）

カレーライスの発祥はインドという認識は誰でもあると思いますが、イギリス料理として紹介されていたなんて、なんとも滑稽ですね。

昨今カレーライスは、日本の国民食と言っても過言ではありません。大人から子供まで、団塊の世代からゆとり世代まで、誰からも愛されるソウルフードといったところでしょうか。また、多くの栄養素を一度に摂ることができるので、偏りがちな食生活の頼もしい味方でもあります。

もちろん私も大のカレー党で、毎日一食は必ずカレーライスを食べております。といっても自炊でカレーを作

ったことは一度もなく、もっぱらレトルトカレーばかり食べています。

リピート率第1位は、ハウス食品「カレー屋カレー」。味もさることながら商品名もセンスとこだわりが感じられます。“口へんに加”と“口へんに厘”で“カレー”を漢字表記しています。CMに俳優のえなりかずきを起用したことで有名なレトルトカレーです。基本的に朝は甘口で、昼食と夕食は中辛～辛口でバランス良く食べています。

他にはボンカレーもよく食べますが、今までで印象的なカレーをあげるとすれば、引き出物のカタログで頼んだ丸大のカレーとお台場土産のイマイチカレーはなかなかハイレベルなインスタントカレーでしたね。

これからも様々なカレーと刺激的な出会いがあればと思っています。香辛料だけに。

ああ、つまらないこと書いていたら夕食の時間だ。そうだ、今日もカレーにしよう！



お台場土産のイマイチカレー

## 投書箱から

院内に設置している投書箱に患者さんからお手紙が寄せられましたのでご紹介します。

胃癌切除手術を受け、西6階A病棟に入院しました。癌と聞いたとき、驚きと不安がいっぱいでしたが、外科担当医師から手術診療の進め方、麻酔医師から麻酔手順（周術映像含む）など、心に伝わる説明や、私からの質問や不安にも優しく答えていただき、前向きに手術を受ける気持になりました。また、手術後は、手術担当医師が毎日病室を訪れ、経過や悩みを聞き、励ましをいただきました。おかげさまで、安心して落ち着いた入院生活を送ることができました。

西6階A病棟では、看護師長、看護師のみなさんから、注射点滴・清拭・食事・歩行補助などたくさんお世話頂をいただきました。いつも笑顔はつらつ、てきぱきと仕事をされ、たくさんの励ましをいただいたことを忘れません。お一人おひとりありがとうございますとお礼をいいます。

現在、私は退院4ヵ月が過ぎ、食欲も増し、味覚も前より良くなりました。月1回程度、外科外来で手術担当医師から引き続いて診療していただいております。これからの岩手医大の御発展を心よりお祈りしています。（一部省略）

すこやか

# スポット歯学講座

No. 8

歯科補綴学第二講座

助教 大平 千之

(おおだいら ちかゆき)



## 審美歯科について

### ●審美歯科とは？

美しい口元、すてきな笑顔は快適な社会生活を営む上で重要です。鏡に映った自分の顔をながめて口元が気になり、不満や悩みをお持ちのかたはいらっしゃらないでしょうか。

審美歯科とは見た目の美しさはもちろんのこと、「よく噛める」、「よく話せる」といった機能を回復することによって、お口の健康や心身の健康を増進し本当の意味での美しさを長く保つことを目的としています。

口元に対する不満や悩みの原因は、歯の色、形、大きさ、または、歯肉に関することまで多くのことが関与しています。それら個々の悩みを解決するためには、状況に応じた適切な処置が必要となってきます。

今回のスポット歯学講座では、審美歯科の中でも歯の色や形をセラミックの材料を用いて自然観のある口元を回復する方法を紹介させていただきます。

### ●オールセラミッククラウン

オールセラミッククラウンは、歯の全面を削り、セラミックを接着することで歯の形態、色調、機能を再現する治療法です。金属を用いないため、透明感のある自然な歯を表現できます。長期間経過しても色や艶の変化は見られず、生体親和性が高く金属アレルギーの心配がありません。また、近年機械的強度の向上により適応範囲が広がってきています(図1)。



図1

### ●ラミネートベニア

ラミネートベニアとは、歯の前面にセラミックなどで出来たシェルを接着させる治療法です(図2)。この治療法は、接着技法の進歩により臨床応用が可能になった治療法で、最小限の侵襲で、歯の形、色、隙間等を部分的に修復できることが特徴です。



図2

私たちは美しい口元を手に入れるためのお手伝いをいたします。何でもお気軽にご相談下さい。

### ●編集後記

特集記事の中央材料部は「どんなことをするところだろうか?」と思っていた部署のひとつでした。普段、目に触れないところでもいろいろな規則・規定が存在し、それを順守し業務を遂行していくことによって、大学・病院が動いているということに改めて実感しました。その他経費削減の実施は、大学の省エネにもつながり、さらには他の部署へのいい刺激になればと思っております。(編集委員 武藤 千恵子)

岩手医科大学報 第398号

発行年月日 平成21年6月29日

編集 岩手医科大学報編集委員会

事務局 企画部 企画課

盛岡市内丸19-1

TEL 019-651-5111 (内線7022)

FAX 019-624-1231

E-mail:kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印刷

河北印刷(株) 盛岡市本町通2-8-7

TEL 019-623-4256

E-mail:office@kahoku-ipm.jp